

がん検診に関するご案内



がん検診の結果で、
精密検査のご案内がありましたら、
必ず精密検査を受けてください。

気になる症状がある場合は、次回の検診を待たずに、医療機関を受診してください。
またどのように受診したらよいか迷われた際は、当協会の相談窓口にご相談ください。

健康診断の健康相談：045-323-9993

がん検診は
早期発見・
早期治療！

がん検診の目的は、がんを早期に
発見して早期に治療につなげること
です。

日本人が一生のうちにがんと診断
される確率は男性・女性ともに2人
に1人とされています。

がんは定期的な検診で早期に見つ
けるほど、治療の負担を減らし、
ご自身の生活や仕事への影響を最小限に抑えることにつながります。

S56年以降、がんは死亡原因の第一位^(※1)で、生涯でがん罹患する確率は、男性・女性ともに2人に1人とされています。^(※2)
国が推奨するがん検診は死亡率を減少させることが科学的に証明された有効な検診です。
症状がない時（元気な時から）定期的ながん検診を受けることが大切です。

* 1 がん検診事業のあり方について R6年7月 厚労省参照
<https://www.mhlw.go.jp/content/10901000/001280419.pdf>

* 2 がん情報サービス 1. 最新がん統計まとめ 国立がん研究センター
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html

生涯でがん罹患する確率は、
男性 **61.1%** (2人に1人)、
女性 **50.1%** (2人に1人)

●累積がん罹患リスク (2023年データに基づく)

部位	生涯がん罹患リスク (%)		何人に1人か	
	男性	女性	男性	女性
全がん	61.1%	50.1%	2人	2人
食道	2.3%	0.6%	43人	179人
胃	8.0%	3.9%	13人	26人
結腸	6.0%	5.7%	17人	18人
直腸	3.6%	2.2%	28人	45人
大腸	9.6%	7.9%	10人	13人
肝臓	2.5%	1.2%	39人	83人

がん検診の
メリット

メリット

- がんにより死亡するリスクを減らすことができる
- 早期に発見することで、身体への負担や生活への影響を抑えた治療につながる

デメリット

- がんが100%見つかるわけではないこと
- がんではないのにがんと診断を受けたり（偽陽性）、がんがあるのに精密検査不要と判断され、見逃してしまうこと（偽陰性）
- 精密検査が必要となり、不安を抱いてしまうこと



あなたらしく生きる力に
公益財団法人
神奈川県予防医学協会

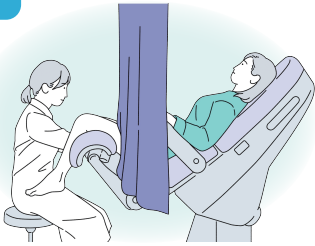
国が推奨している **5** つのがん検診

1

子宮頸がん検診

20 歳以上

2 年に 1 回



検査内容 問診 視診 子宮頸部の細胞診及び内診

精密検査 コルポスコープ下の組織診 細胞診 HPV 検査

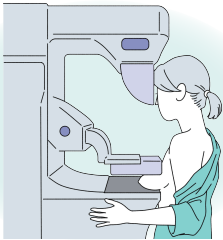
20代と30代の女性ではもっとも罹患する人が多くなります。
年間約11,000人が子宮頸がんにかかり、約3,000人が子宮頸がんで亡くなっています。早期の子宮頸がんやがんになる前の状態は自覚症状がないことがほとんどです。定期的な検診が重要です。

2

乳がん検診

40 歳以上

2 年に 1 回



検査内容 問診 乳房X線検査（マンモグラフィ）

* 視診、触診の単独実施は推奨されていませんが、マンモグラフィとの併用に限り行われる場合があります。

精密検査 マンモグラフィの追加撮影 超音波検査 細胞診 組織診 など

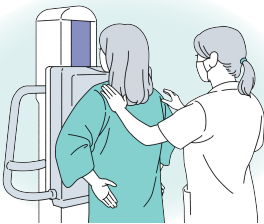
30代後半から増加しはじめ、40歳以上の女性ではもっとも罹患する人が多くなります。
また40代から死亡率があがり、がんの死亡率の中でも上位に位置しています。早期発見、早期治療するためにも、定期的な検診が重要です。

3

肺がん検診

40 歳以上

1 年に 1 回



検査内容 問診 胸部 X 線検査

精密検査 胸部 CT 検査

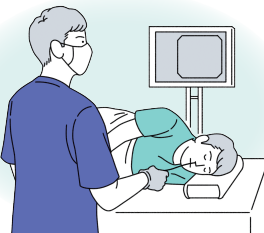
60歳過ぎると死亡率は上がり始め、男性では死亡数の1位を占めています。
煙草を吸う人は吸わない人に比べて男性では4倍、女性では3倍の肺がんリスクが高くなります。症状が出てからでは治療がしにくいので、症状がない時から定期的な検診が重要です。

4

胃がん検診

50 歳以上

2 年に 1 回



検査内容 問診 胃部 X 線検査または胃内視鏡検査

精密検査 胃内視鏡検査

死亡原因の上位を占めており、罹患する人は50代から増え始めます。
ピロリ菌の持続感染により胃がんのリスクが高まると考えられています。早期発見・早期治療により、死亡のリスクを下げるすることができます。進行してしまうと予後が悪くなってしまいますので、定期的な検診が重要です。

5

大腸がん検診

40 歳以上

1 年に 1 回



検査内容 問診 便潜血検査（2 日法）

精密検査 全大腸内視鏡検査 など

死亡原因の上位を占めており、罹患する人は40代から増加します。
早期の大腸がんは自覚症状がないことが少なくありません。早期発見・早期治療により、死亡のリスクを下げるすることができます。症状のない時から定期的な検診が重要です。

〈横浜市のがん検診を受診された方へ〉

検診は自治体と各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は横浜市へと連絡されます。当協会以外の医療機関で精密検査を受けた場合は当協会にも後日精密検査結果が共有されます。
(医療機関の検診精度向上のため)